

平成23度 唐津市立鬼塚中学校 学校評価計画

1 学校教育目標
「感動 感謝 思いやり」 ～ 豊かな人間性・確かな学力・たくましい身体の育成 ～

2 学校経営ビジョン
<めざす学校像> ①感動と感謝、思いやりと信頼で結ばれた、豊かな人間性を育む学校 ②活気と知性に満ちあふれた学校 ③規範意識や自立の心を育てる学校 ④家庭・地域・小中と連携し、信頼され支援される開かれた学校 <めざす生徒像> ①感動と感謝、思いやりのこころを持ち、仲良く助け合い協力する生徒 ②意欲的に学び主体的に行動する生徒 ③基礎基本をしっかり身に付け、生活の中で活かしている生徒 ④自他の尊厳を認め、人の痛みに共感できる生徒 <めざす教師像> ①使命感にあふれ、優れた指導力と実践力のある教師 ②教育愛に満ち豊かな人格で人間味あふれる教師 ③人権を大切にす教師 ④保護者、地域社会より信頼され、心身ともに健康な教師 ◎教育スローガン GTO……めざせ！！ 元気(G)で楽しい(T)鬼塚中学校(O) ◎生活行動目標 GTO……元氣なあいさつ(G)・時間を守る(T)・お掃除の徹底(O)

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
① 豊かな人間性の陶冶 ② 豊かな学力の育成 ③ たくましい身体づくり ④ 家庭・地域・小中の連携	①学校運営では、本年度、評価計画の見直しやアンケートの改善に取り組んだ。研究授業に力を入れることができたが、学習習慣等の新たな課題も明らかになり、来年度は校内研究の充実が必要である。 ②教育活動では、魅力ある学校づくり推進事業を実施し、放課後学習会を実施し、少人数やTTによる指導の工夫改善を行うことができた。しかし、県の学習状況調査の結果は、全体としては依然として県の平均より低い実態にあり、今後も基礎学力の向上は本校の最重点課題の一つである。また、自主的に判断・行動し、積極的に自己を生かしていくことができるような生徒指導の充実が課題である。 ③特定課題では、小学校との連携が充実し、合同授業研究会や教育相談に係る研修を深めることができた。小学校だけでなく育友会を中核とする地域の教育力を活用した小中連携の推進も図っていきたい。

5 総括表

① 豊かな人間性の陶冶				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	道徳教育の充実	全クラスで保護者に道徳授業を公開する。 道徳便りを月1回発行する。	・授業後の感想等を生徒や保護者に知らせ、思いや考えを共有する。 ・全校集会や学年集会で教師による道徳的な講話を行う。
教育活動	○生徒指導	生徒指導の充実	正しいことと間違っていることの区別ができ、正しい行動ができるといえる生徒の割合を80%以上にする。	・より良い学校生活と仲間作りのため、QUテストを実施・活用する。 ・全校集会等を通して重点課題を明確にし、生徒の規範意識を高める。
特定課題	○生活行動目標	GTOの実施	(G) 元氣なあいさつをする。 (T) 時間を守る。 (O) 掃除を徹底する。	・朝のあいさつ運動を充実させる。 ・電波時計の設置など時計を見る習慣を高める。 ・掃除用具を整備し、校舎・施設への愛着心を持たせる。
② 豊かな学力の育成				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質の向上	授業の指導力の向上	教科ごとに授業研究会を運営し、教科の力量をつける。	・国社数理英については毎年、技能教科については隔年で授業研究会を実施する。
教育活動	●学力向上	学習規律、学習習慣を身につけさせる指導の徹底	各教科で県及び全国学力状況調査等で県平均と同等の結果を出す。	・中学校区共通実践項目「と・じ・か」の徹底 ・基礎基本を定着させるため、市実施以外でも学校独自に基礎学力テストを実施する。
特定課題	○いきいき学ぶからつっ子育成事業	学習習慣の向上	家庭学習の時間を増加させ、学ぶ意欲を向上させる。	・保護者の協力により家庭学習状況を調査し、家庭学習の重要性についての意識を高める。 ・学習や文化及び体育面で頑張った生徒を認め、表彰する。
③ たくましい身体づくり				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	早寝・早起きの指導	午前0時以前の就寝及び午前7時以前の起床の生徒の割合を90%以上にする。	・健康調査で確認をする。・アンケートを実施する ・たより等で、家庭の協力を得る。
特定課題	○部活動	部活動の活性化	自分の目標に向かって自主的に頑張れたと思う生徒の割合を80%以上にする。	・目的課題意識をもたせ、協力、自主性を身につける指導を行う。 ・場に応じた礼儀の指導を行う。
④ 家庭・地域・小中の連携				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標および本年度の重点目標の周知	教職員、生徒、保護者への周知を図る。特に保護者の周知率を80%以上にする。	・職員会議、全校集会で理由とともに説明する。 ・総会や保護者会への参加を促す工夫をし、各種たよりやホームページで周知を図る。
学校運営	○開かれた学校づくり	学校情報の提供と学校開放	学校からの情報提供を積極的に行う。(学校便り12号、学級便り年間20号以上)授業参観など、学校行事の保護者の参加率を50%以上にする。	・学級便りは2週間に1回程度発行し、学校からの情報提供をする。 ・体育大会・文化祭・学校開放日などは地域への案内や招待状を発行する。
特定課題	○小中連携	小学校との連携充実	TTを含む小中授業研究会を年2回実施。合同教育講演会の広報を徹底させる。	・3校授業研究会を実施し共通課題を明らかにする。 ・教育講演会を実施し、保護者と教育問題を考える。

●は共通評価項目、○は独自評価項目